

第1回安曇野市文書館運営審議会 会議概要

1	会議名	第1回安曇野市文書館運営審議会
2	日 時	令和元年5月7日(火) 午後1時30分から午後3時まで
3	会 場	安曇野市文書館 2階 講義室
4	出席者	栃木委員、小松委員、瀬畑委員、高原委員、曽根原委員
5	市側出席者	橋渡教育長、西村教育部長、那須野文化課長、財津博物館係長、逸見博物館係主査、平沢文書館長、高橋博物館係係員
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	令和元年5月16日

会 議 事 項 等

会議の概要

- 1 開会（那須野文化課長）
- 2 あいさつ（橋渡教育長）
- 3 委員の委嘱
- 4 自己紹介
- 5 会長選出

安曇野市文書館条例第15条第4項及び第5項に基づき、会長に小松委員、会長代理に曽根原委員が選出される。

6 協議事項

(1) 平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画

事務局 ・資料1及び資料2について説明

委員 ・公文書の整理点数と公開点数に大幅な開きがある。公文書が移管されてから、市民が利用できるようになるまで時間が掛かりすぎているのではないか。利用制限基準の審査を公開より前に行っているようだが、整理が完了できた時点で目録を公開し、利用申請の後に審査の作業を行うよう体制を変えてはどうか。

委員 ・公文書の公開について、現在の体制をすぐに変更できないのであれば、公開作業の長期計画を提示していただきたい。未公開となっている文書について、市民が自主的に調査できる手段を考えてほしい。文書の受け入れをした時点で、文書館だよりに概要を掲載すること等を検討してほしい。

事務局 ・現在、文書の整理作業に非常勤職員を3人、利用制限基準の審査等の公開作業に専門的知識を持つ職員を1人と行政経験のある再任用職員を1人あてている。未公開となっている文書が多数存在することについては、開館以来の課題となっているため、体制を含めて再検討したい。

委員 ・事業指針に利用件数をあげているが、文書館は本来入館者数や利用件数で評価されるものではないので、指針とする必要はないのではないかと考える。

事務局 ・行政評価という観点すると、客観的な指標として利用件数を示すことは免れないと考える。

委員 ・古写真の収集に重点を置きたいとのことだが、古写真には撮影年代や撮影場所が不明確なものも多い。そうしたものの判定がどのように行っていくつもりなのか。特に市史編さんを行うということであれば、判定を慎重に行っていただきたい。

事務局 ・古写真の収集時に、所有者に対して入念な聞き取り調査を行っていききたい。収集方針や作業手順については、これから具体的に整備していくので、年代判定等慎重に行えるよう心掛けたい。

委員 ・地域資料の所有者の中には、市施設の保管場所が整えば、寄贈したいという意見もあると思う。文書館内の見学会を行って周知していただきたい。

委員 ・市職員の利用は、背後に多くの市民の行政利用があると考えられるため、統計を別にし、明確化しても良いと思う。

## (2) 学校所在資料の移管について

事務局 ・資料3について説明

委員 ・保存年限が5年となっている文書を、あえて15年間現用延長にするのはなぜか。

事務局 ・学校の実情を調査すると、保存年限通りに文書を廃棄している事例はなかった。学校での文書の必要性を鑑みると、15年間現用延長としても差し支えないと考える。

委員 ・学校で現に文書を活用しているのであれば、15年間の現用延長も問題ないと思うが、保存環境によっては文書の劣化がすすむこともあるため、文書館として適切な指導を行ってほしい。

委員 ・職員履歴書等の年代によって移管するものと、移管しないものがある文書はどのように考えているのか。移管となる文書は資料群として一定のまとまりが必要と考える。

事務局 ・職員履歴書や成績表等は、個人情報が多く含まれているため、本来であれば移管とならないが、昭和30年以前の文書については、その希少性を鑑み、移管の対象としている。

委員 ・学校日誌は、地域のことが細かく記載されているので、文書館で保管し、利用に供していただきたい。児童生徒の作文集については、年代による希少性を鑑みて移管の対象としていただきたい。

委員 ・現に活用されていない学校図書は、図書館に移管するのが良いのではないかと。文書館ではどのような活用が見込まれるのか。

事務局 ・学校の調査結果では、現在市場に流通していない自治体史や、資料集が多く存在していることがわかった。そういった図書は文書館では入手困難なため、学校から移管を受けて活用していきたい。

## (3) 市史編さん事業について

事務局 ・資料4について説明

委員 ・費用をかけないのであれば、旧町村史を再編集し、1冊ないし上下巻とするのが良い。インターネットを利用できない人のためにも、紙媒体で刊行することを望む。

委員 ・「安曇野」の一体性を示すため、地域全体を見通せる市史を編さんする意義がある。辞書形式なものも良いが、軽易な文章や写真を取り入れて、親しみやすいものにしてほしい。

委員 ・市域全体が一つの市史にまとめられ、安曇野市民であるという意識付けにつながると思う。若年層への働きかけを積極的に行ってほしい。インターネットを活用するのであれば、年表と資料が紐づけられているコンテンツ作りを勧めたい。

委員 ・歴史編ばかりではなく、自然編、民俗編にも重点を置いていただきたい。安曇野市域は旧町村ごとの特色を表現することも必要と考える。市史編さんに市民が主体的に関わることで、市史編さん事業自体を生涯学習活動や地域づくりの活動の場としてほしい。市民が参画できる体制づくりを考えていただきたい。

委員 ・市史編さんを機会に、地域資料の悉皆所在調査を行っていただきたい。安曇野市全体をまとめた総論と、地区ごとの各論でまとめるのも良い。自治体史を窓口として、より深く調査したいときに文書館を活用してもらえるようにするのが良いと思う。

## (4) その他

事務局 ・11月14日(木)～11月15日(金)に全国歴史資料保存利用機関連絡協議会の全国大会を本市において開催することになった。

7 閉会

以上